

総務省統計局統計情報システム課

平成 24 年 7 月 25 日

## 政府統計の総合窓口（e-Stat）による統計データ提供の現状と今後

- ① 各府省の統計データを一つにまとめ、ワンストップでの情報提供を実現するポータルサイトとして、平成 20 年 4 月から運用
- ② 操作性等ユーザビリティに配慮した機能向上を図り、次期システムを平成 25 年 1 月から運用開始

### 1 現行 e-Stat の主な機能

- 各府省データの検索・ダウンロード機能
  - ・ 統計調査名からの検索が可能
  - ・ 府省別、分野別（世帯・労働など）の検索が可能
  - ・ 関係するキーワードによる検索が可能
- グラフ作成機能
  - ・ 任意の項目を選択し簡易にグラフを作成
- GIS 機能
  - ・ 主要な統計データを地図上に地域別に色分けして表示

### 2 次期システムの主な改善点

- 操作性等ユーザビリティに配慮した機能向上
  - ・ キーワード検索の高速化（レスポンスの向上）
  - ・ 検索キーワード等ランキング表示により利用頻度の高い統計へ容易にアクセス
  - ・ GIS 機能における操作性を向上（ドラッグ＆ドロップによる項目選択等）
  - ・ グローバルナビゲーションの追加 など



## 【参考】

### データ提供にかかる海外の動向

- ① 経済協力開発機構（OECD）では、統計分野における情報取得効率化等を目的に、データ交換等のための標準化言語として SDMX を推奨
- ② 最新の動向としては、2011 年 4 月に SDMX 技術標準 2.1 を公開
- ③ 標準化推進のための議論には、経済協力開発機構（OECD）の外、国際決済銀行（BIS）、欧州連合統計局（Eurostat）、欧州中央銀行（ECB）、国際通貨基金（IMF）、国際連合（UN）、世界銀行（WB）などが参加し、現在、40 以上の国際機関において、SDMX を採用

## SDMX とは？

→ データ交換等のための標準化言語であり、統計表をメタデータと数値の 2 つのデータファイルに分割し、標準化してデータ交換を行う。

